

平成26年度小地域福祉ブロック会議 まとめ【山手中学校区】

中学校	平成25年度までに挙げられている課題	小学校区	小地域福祉ブロック会議にて作成した活動目標と活動内容
山手 中 学 校 区	地域とのかかわりに消極的な人や認知症によって福祉課題を有する人にどのように関わって良いか知る機会を設けたい。	岩園地区	・認知症サポーター養成講座を年2回開催し、サポーターを60人増やす。
		朝日ヶ丘地区	・自治会、老人会、コムスク、福祉委員会、専門職で実行委員会を結成し、1月31日に朝日ヶ丘小学校にて地域住民向けの認知症サポーター養成講座を開催し、総勢164名が参加
	地域で孤立している人の困りごとが大きくなってから発見されないようにしたい。		
	見守り活動の担い手が、一部の人に限定されない“見守りの輪”を広げたい。	三条地区	・見守りの担い手を増やす
		岩園地区	・一声かけて垣根を超える。1年以内にマンション管理人など二人の仲間を作る。
	マンションの方と情報共有や活動の協働が出来るようになりたい。		
	身近な場所で気軽に集える場や機会を設け、相互の交流を通じて“顔の見える関係”をつくりたい。	岩園地区	・いつでも集える場所を作る・増やす
		三条地区	・町内で5月にガレッジセールを実施予定となる。 ・多世代交流イベントを開催。 ・イベント時に福祉講座を組み込み、福祉の意識を根付かせる。
	いざ、支援を求めたいと思った時に、相談先がわかるようにしておきたい。		
	地域の行事やイベントに関する情報が地域に行き渡るように効果的に発信したい。		
災害発生時の災害時要援護者の避難や誘導などに対して、日頃の関係づくり等を行うための機会や場を設けたい。	山手地区	・障がい者を有することを示すグッズの普及。 ・障がい者を交えた避難訓練の実施。 ・福祉課題を抱える方への災害時の対応検討。	

※空欄については、協議いたしておりません。

平成26年度小地域福祉ブロック会議 まとめ【精道中学校区】

中学校	平成25年度までに挙げられている課題	小学校区	小地域福祉ブロック会議にて作成した活動目標と活動内容
精道中学校区	民生児童委員、福祉推進委員、自治会、老人会などたくさんの福祉活動の担い手があるが、一緒に取り組むような“しかけ”が出来ない	精道地区	<ul style="list-style-type: none"> ・3年以内に防災のネットワーク作りを通して各機関の協働体制の構築 ・行事を通して若い世代の参画
		宮川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織と連携し、若い世代の参画 ・2年で各機関との合同行事を増やす ・自治会、福祉委員会、老人会、子ども会にて協働で出来る福祉活動を検討する場を設置(浜町)
	地域で福祉活動（日頃の“さりげない見まもり”や“ちょっとした支えあい”）がなかなか活性化しない。	精道地区	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会にて挨拶運動を実施(伊勢町)
		宮川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の視点を持った見守り隊の創設 ・子供対象イベントを通して、多世代交流 ・共同行事からの福祉の担い手づくり
		打出浜地区	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、福祉委員会、老人会で各団体間の情報共有の場を3月に開催予定(春日町) ・多世代交流イベントの開催 ・イベントのPRを通して、声掛け運動
	地域の人が集える“居場所”がいろいろあるが、“本当に参加して欲しい人”に参加してもらえていない。	宮川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・町によっては、福祉活動の拠点がないため、5年の間に空き家を活用し、交流スペースを創設 ・現行の居場所活動の拡大
	居場所に参加してもらえない人の生活状況がわからない。	宮川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション管理人との相談体制構築
	地域で見まもるべき“ほっとけない人”に対してどのように関わっていいかわからない。	宮川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座等の勉強会
		精道地区	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けと認知症勉強会
	“ほっとけない人”が、地域にどのような関わりを期待しているのかわからない。		

平成26年度小地域福祉ブロック会議 まとめ【潮見中学校区】

中学校	平成25年度までに挙げられている課題	小学校区	小地域福祉ブロック会議にて作成した活動目標と活動内容
潮見中学校区	災害時や日常生活で福祉課題（“生きづらさ”や“暮らしにくさ”）を有する人が、どこに、どの程度いて、どのような生活実態なのか把握できるようにしたい。	浜風地区	・自治会、管理組合実施のアンケートの活用。
	自治会、管理組合の役員が毎年交代するが、福祉活動が継続できるような仕組みを作りたい。	潮見地区	・ 自治会内に福祉担当を設置。（緑西地区自治会）
		浜風地区	・福祉部や自治会の創設。
	認知症の高齢者や障がい者等と日常的な見守りや必要な支援が行き届くようにするために関わり方を学びたい。	潮芦屋地区	・認知症がどういうものか知りたい。 ・認知症や障がい者等への関わり方について、地域の専門の方と話してもらう。
	地域では様々な組織・団体が福祉的な活動をしているが、お互いのつながりが薄いので、協働出来る仕組みをつくりたい	潮芦屋地区	・子どもを通して、自治会間の横の連携を図りたい。
	福祉活動の担い手やリーダーとなる人を育成したい。		
	地域住民同士の繋がりが希薄になってきているので、顔の見える関係を醸成したい。	潮芦屋地区	・国際色豊かなカレー作りなど、親水中央公園を活用した野外活動の実施。
	子育て、介護等で困りごとがある時にどこにどのように相談したらよいかわかるようにしたい。	潮芦屋地区	・「サービスの種類・内容」「認知症について」「相談窓口」など、自治会の定例会に専門機関を呼び、出前講座や出張相談を実施。
		浜風地区	・防災福祉情報をまとめたものを作成する。 ・かわら版を作り、掲示板を活用する。 ・出前講座などを活用する。
既存の福祉組織、団体が実施している行事の参加者が少なくなっている為、新しい参加者を増やすように取り組みたい。	浜風地区	・挨拶、声掛けから親しくなり行事に誘える関係に繋げる。 ・広報をわかりやすくし、回覧板、掲示板の活用する。 ・アンケートを実施し、興味のある行事を開催する。	
地域の身近なところに高齢者等（特に男性）が気軽に集える場や機会を設け、閉じこもりがちの人をなくしたい。	浜風地区	・男性が得意なことを生かした活動。 ・閉じこもり予防に繋がる講座の開催。	

※空欄については、協議いたしておりません。